

2006年9月5日

東日本旅客鉄道株式会社

「社会環境報告書2006」の発行

このたび、JR東日本グループの環境などへの取組みをまとめた「社会環境報告書2006」を発行いたします。

持続可能な社会へ向けたJR東日本グループの活動を、社会面、環境面、経済面の3つの側面から幅広くご紹介いたします。

1 社会環境報告書の発行

JR東日本グループの持続可能な社会へ向けた取組みについて社会面（安全、サービス、地域貢献、社員の働きがいなど）、環境面（地球温暖化防止、資源循環など）や経済面（経営成績、ステークホルダーとの経済的関わりなど）について幅広くご紹介する「社会環境報告書2006」を発行いたします。本報告書を通じて、多くの方に当グループの取組みをご理解いただくとともに、ご意見をいただくきっかけとなるツールとして活用してまいります。

また、主要な内容をピックアップした「ダイジェスト版」も作成し、社員の環境意識をさらに高めるために全社員へ配布するほか、様々なイベント等でも配布してまいります。

今回作成した社会環境報告書の主なポイントは、次のとおりです。

● 「安全」と「環境」への取組みについて当社の考え方をご説明する「特集編」（P6～P12）

本報告書は「特集編」と「詳細編」の2部構成としました。各種取組みを網羅的にご紹介する「詳細編」に対し、「特集編」では主要な取組みである「安全」と「環境」について社外の有識者からご意見をいただきつつ、より深く当社の考え方をご説明するものとしました。

・「安全」…「究極の安全をめざして」（P6～P8）

原点に立ち返り、JR東日本の安全への取組みを進めるべく、失敗を直視して学ぶ「失敗学」を提唱される畑村洋太郎 工学院大学教授と当社安全対策部長の対談を実施。

※ P9では、「羽越本線列車事故」への当面の対策と今後の対応について、ご報告しています。

・「環境」…「JR東日本の地球環境に対する責任」（P10～P12）

JR東日本の地球環境保全の取組みについて、当社が考える今後の方向をご説明しつつ、都市交通計画の専門家で環境保全にも造詣の深い中村文彦 横浜国立大学大学院教授からのコメントを掲載。

● 進捗があった主な取組みについてコラム形式でご紹介（P32、P42、P43）

網羅的に取組みをご紹介する「詳細編」においても、進捗があった主な取組みについては、より深くご紹介できるようコラムを掲載。

・「男女共同参画への取り組み」（P32）

・「JR東日本エコ活動」（P42）

・「環境保全に資する研究開発」（P43）

2 2005年度の主な環境保全活動について（P36）

- 地球温暖化防止のための取組みである「事業活動に伴うCO₂総排出量の削減」については、2004年の新潟県中越地震で自営水力発電所が被災し、自営火力発電所の発電量が増加した影響により、1990年度比7%の削減となりました。（地震発生前の2003年度は20%削減）
【2008年度目標：22%削減】
- 省エネルギー車両の導入等の効果により、「単位輸送量あたりの列車運転用消費エネルギー」は、前年度より2ポイント向上し、1990年度比15%の削減となりました。
【2008年度目標：19%削減】
- 「駅や列車で出されるゴミのリサイクル率」は、前年度より4ポイント増加し、47%となり、目標を達成しました。
【2008年度目標：45%】
- グループ全体の目標である「一般廃棄物のリサイクル率」は前年度より4ポイント増加し、42%となりました。
【2008年度目標：43%】

詳しくは、「社会環境報告書2006」をご覧ください。なお、「社会環境報告書2006」は当社ホームページ（<http://www.jreast.co.jp/eco/>）でもご覧いただくことができます。